

(事務連絡)
平成 26 年 5 月 23 日

地域歯科医師会会長 殿

一般社団法人神奈川県歯科医師会医療管理委員会

読売新聞掲載記事について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より本会には格別なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成 26 年 5 月 18 日(日)の読売新聞朝刊において『歯削る機器 7 割使い回し』という見出しの記事が掲載されました。内容は、タービンヘッドの滅菌についての調査(国立感染症研究所などの研究班)により、「患者ごとに必ず交換」が 34%、「交換せず」が 17%、「時々交換」が 14%、「感染症患者に使用したとき交換」は 35%であり、結果滅菌されずに使われているのは 66%という結果に言及するものでした。

そこで、公益社団法人日本歯科医師会では、別紙のとおり平成 26 年 5 月 19 日付にて早急に対策をたてる準備を行っている旨通知がございましたので、取り急ぎお知らせいたします。

また、本会では、平成 19 年 9 月に「小規模な無床歯科診療所用 医療安全管理指針、医療安全管理マニュアル～指針・各種マニュアル」を作成・配布し、また神歯歯界季報冬号 Vol. 20, 2011(平成 23 年 2 月発行)において、「患者に見える院内感染予防に取り組もう～歯科診療における院内感染予防 15 項目～」を掲載して周知を行っております。

つきましては、時代の流れと現在の医療環境の背景を踏まえて、それぞれの歯科診療所の規模、機能に応じて院内感染対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。





平成26年5月19日

都道府県歯科医師会 御中

公益社団法人 日本歯科医師会
常務理事 瀬古口 精良

読売新聞掲載記事について

平素は、本会会務運営に格段のご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、平成26年5月18日(日曜日)の読売新聞朝刊において「歯削る機器7割使い回し」という見出しの記事が掲載されました。内容は、「タービンヘッドの滅菌についての調査(国立感染症研究所などの研究班)により、「患者ごとに必ず交換」が34%、「交換せず」が17%、「時々交換」が14%、「感染症患者に使用したとき交換」は35%であり、結果滅菌されずに使われているのは66%という結果に言及するものでした。

まず、第一に当該データがどのような調査によるものか、学会と協力の上精査する必要があると考えております。

また、本会は、従来から学会と協力の上、たびたび指針等を作成・配布しております。ご承知のように、タービンヘッドの滅菌は、抜歯鉗子やキュレット、根管治療用ファイル等と異なり、直接血液等に接触するものではありませんが、それを根拠に滅菌の簡便化を容認できない状況にもあります。その一方で患者ごとに滅菌交換している歯科医師が34%存在する点を考慮した対応の必要があると考えております。

さらに、記事の「使い回し」という表現は、ヘッドが一回ごとに捨てる器具ではない以上、適切なものではありませんので、当該記事を書いた記者と何らかの意見交換をする必要があると考えております。

かさねて、会員からも本会宛にお問い合わせを頂いており、早急に対策をたてる準備をしていることをご理解いただき、お伝え頂きたくとり急ぎお願い申し上げます。